

2024年2月期 第1四半期 (2023年3月1日~2023年5月31日)

決算説明資料



2023年7月13日(木)



Entertainment for YOU

— 世界中のお客様に 感動を —

2024年2月期 第1四半期 営業概況

	2023年2月期 (2022年3月～5月)	2024年2月期 (2023年3月～5月)	前年同期比	増減率
営業収入	61,865百万円	74,153百万円	12,287百万円	19.9% ↗
営業利益	14,273百万円	18,324百万円	4,050百万円	28.4% ↗
経常利益	15,829百万円	18,802百万円	2,972百万円	18.8% ↗
親会社株主に帰属する 四半期純利益	11,516百万円	12,291百万円	775百万円	6.7% ↗

2024年2月期 第1四半期 営業概況

【「TOHO VISION 2032 東宝グループ 経営戦略」について】

2022年4月に創立100周年に向けた「長期ビジョン 2032」と今後3か年の具体的な施策である「中期経営計画 2025」から構成される「TOHO VISION 2032 東宝グループ 経営戦略」を策定しました。2年目を迎える本年においても、持続的な成長と中長期的な企業価値向上に向けて取り組んでまいります。詳細は[こちら](#)をご覧ください。

【新型コロナウイルス感染症の影響について】

新型コロナウイルス感染症に伴う当社グループの主力事業への影響は、感染状況が収束傾向となったことや、感染症法上の5類感染症に移行されたことによる人流の活発化などもあり、当第1四半期においては影響は軽微となっております。

しかしながら、演劇事業においては一部演目にて、公演関係者の感染により公演中止となるなど、若干の影響は発生しております。

【第1四半期決算の概況】

映画営業事業において、シリーズで初めて興行収入130億円を超える大ヒットとなった「名探偵コナン 黒鉄の魚影」や「映画ドラえもん のび太と空の理想郷」といった定番のアニメシリーズに加えて、「劇場版『TOKYO MER～走る緊急救命室～』」等の実写作品のヒットや、興行収入120億円を超えた「ザ・スーパーマリオブラザーズ・ムービー」（東宝東和配給）等の洋画作品の大ヒットもあり、増収増益。

映画興行事業において、上記の当社配給作品を中心としたヒットが業績を牽引し、大幅な増収増益。

映像事業において、「僕のヒーローアカデミア」「呪術廻戦」「SPY×FAMILY」「BLUE GIANT」等のTOHO animation作品が、パッケージ販売、商品化ライセンス、動画配信、劇場公開等の多面的展開により好調に推移した結果、増収増益。

映画事業全体では、上記の要因により前年同期と比べ、増収増益。

演劇事業では、大人気コミックのミュージカルとして初めて舞台化された「SPY×FAMILY」や、「Endless SHOCK（Endless SHOCK/Endless SHOCK Eternal）」等が盛況に推移し、公演が一部中止となった演目があったが、増収増益。

不動産事業では、不動産賃貸事業において保有物件が堅調に稼働したが、道路事業において一部工事の計上タイミングのずれが生じたこと等により、増収ながらもわずかに減益。

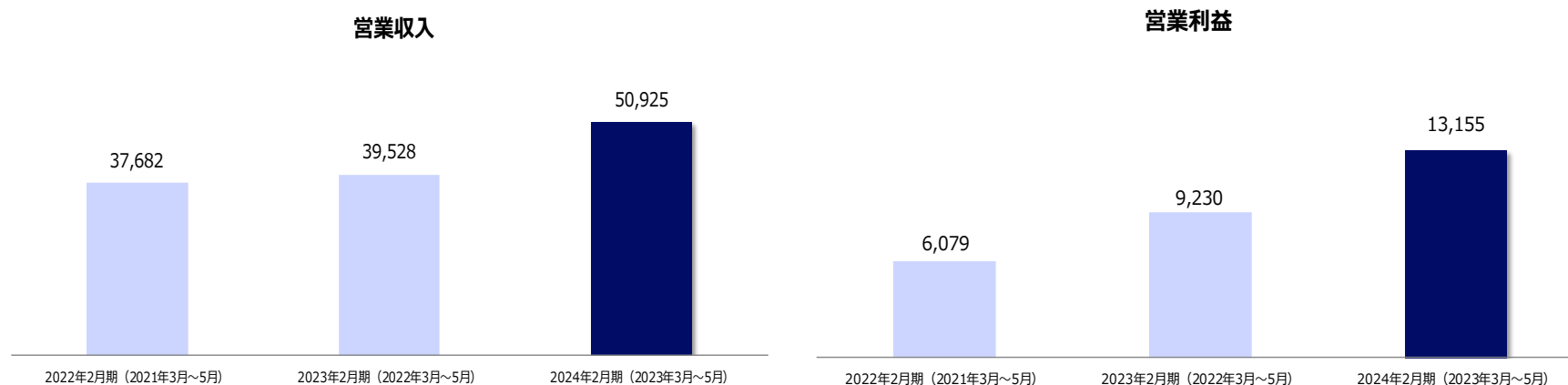
上記の結果、当第1四半期の営業収入、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益は歴代新記録を達成。

セグメント別業績一覧

	営業収入			営業利益		
	2023年2月期 (2022年3月～5月)	2024年2月期 (2023年3月～5月)	増減率	2023年2月期 (2022年3月～5月)	2024年2月期 (2023年3月～5月)	増減率
①映画事業	39,528	50,925	28.8% ↗	9,230	13,155	42.5% ↗
映画営業	11,727	13,859	18.2% ↗	4,800	5,798	20.8% ↗
映画興行	17,339	23,207	33.8% ↗	2,089	4,668	123.5% ↗
映像事業	10,461	13,859	32.5% ↗	2,340	2,688	14.8% ↗
②演劇事業	4,561	5,385	18.1% ↗	737	1,212	64.4% ↗
③不動産事業	17,477	17,535	0.3% ↗	5,193	5,160	-0.6% ↘
不動産賃貸	6,939	7,269	4.7% ↗	3,027	3,302	9.1% ↗
道路事業	8,048	7,768	-3.5% ↘	1,942	1,632	-16.0% ↘
不動産保守・管理	2,489	2,498	0.3% ↗	223	225	1.1% ↗
④その他事業	297	305	2.7% ↗	57	51	-10.5% ↘

(単位: 百万円)

セグメント別業績【映画事業】



(単位：百万円)

業績分析 (増減要因)

- 映画営業事業では、興行収入131億円を超えた「名探偵コナン 黒鉄の魚影」のシリーズ最大のヒットをはじめ、「劇場版『TOKYO MER～緊急救命室～』」(同44億円)、「映画ドラえもん のび太と空の理想郷」(同43億円)、「わたしの幸せな結婚」(同27.6億円)等が高い水準で推移。東宝東和配給作品では興行収入124億円を超えた「ザ・スーパーマリオブラザーズ・ムービー」、「ワイルド・スピード/ファイヤーブースト」(同36.1億円)等のヒットがあり、増収増益。
(興行収入は2023年6月末時点)
- 映画興行事業では、上記の東宝配給作品を中心としたヒットに恵まれ、記録的な大盛況のゴールデンウィーク興行となり、大幅な増収増益。
- 4月17日に大阪府門真市に「TOHOシネマズ ららぽーと門真」(9スクリーン)をオープン。
- 映像事業では、アニメ制作事業において、「僕のヒーローアカデミア」「呪術廻戦」「SPY×FAMILY」「BLUE GIANT」等、TOHO animation作品の商品化権、動画配信等の各種配分金収入、劇場公開が好調に推移。パッケージ事業では、「シン・ウルトラマン」等を提供。出版・商品事業では、劇場用パンフレット、キャラクターグッズにおいて「名探偵コナン 黒鉄の魚影」「映画ドラえもん のび太と空の理想郷」等の販売が好調。映像事業全体として、増収増益。

当第1四半期の主要稼働作品状況

東宝(株)配給作品（興行収入10億以上）

作品名	公開日	興行収入
名探偵コナン 黒鉄の魚影	4月14日	131.7
劇場版「TOKYO MER～走る緊急救命室～」	4月28日	44.0
映画ドラえもん のび太と空の理想郷	3月3日	43.0
わたしの幸せな結婚	3月17日	27.6

東宝東和(株)配給作品（興行収入10億以上）

作品名	公開日	興行収入
ザ・スーパーマリオブラザーズ・ムービー	4月28日	124.1
ワイルド・スピード/ファイヤーブースト	5月19日	36.1

(興行収入は2023年6月末日時点 単位：億円)

当第1四半期の映画営業事業・映画興行事業の推移

映画営業事業 興行収入推移

(単位：百万円)

	2023年2月期	2024年2月期	前年同期比
3月	4,404	6,547	148.7%
4月	7,382	11,388	154.3%
5月	8,719	8,767	100.6%
第1四半期	20,506	26,703	130.2%

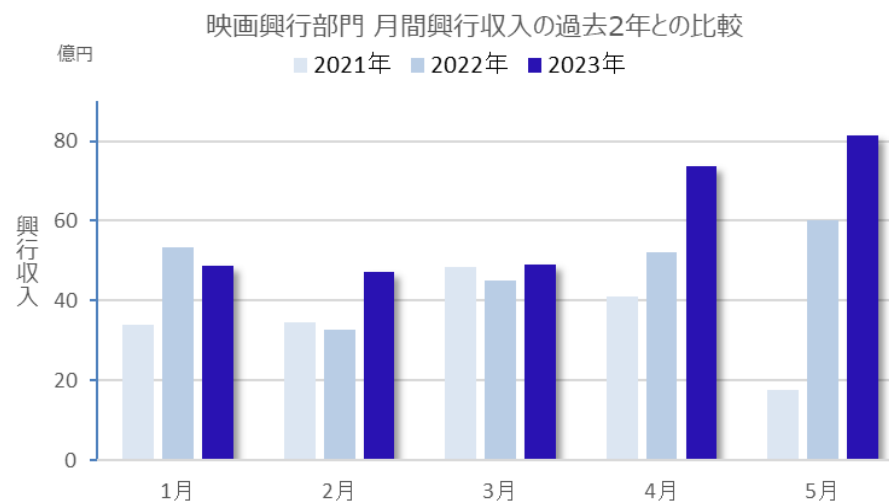
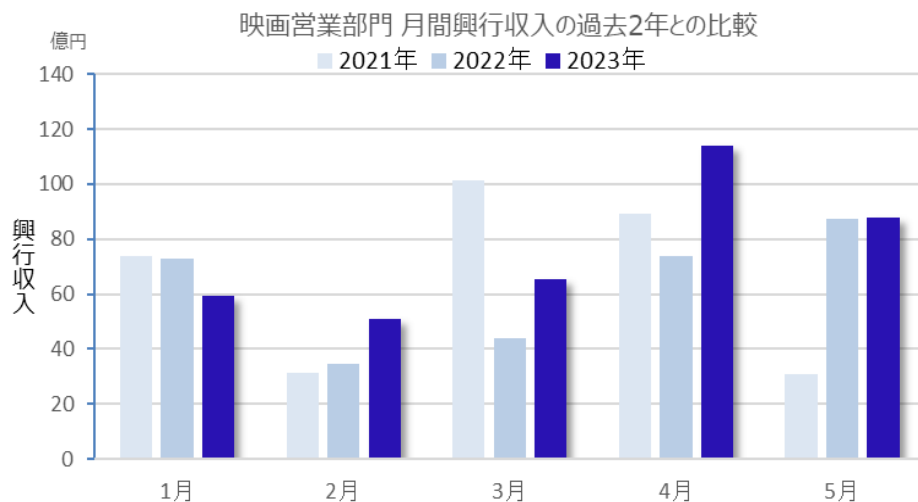
※東宝映画営業部が配給した作品の興行収入

映画興行事業 興行収入推移

(単位：百万円)

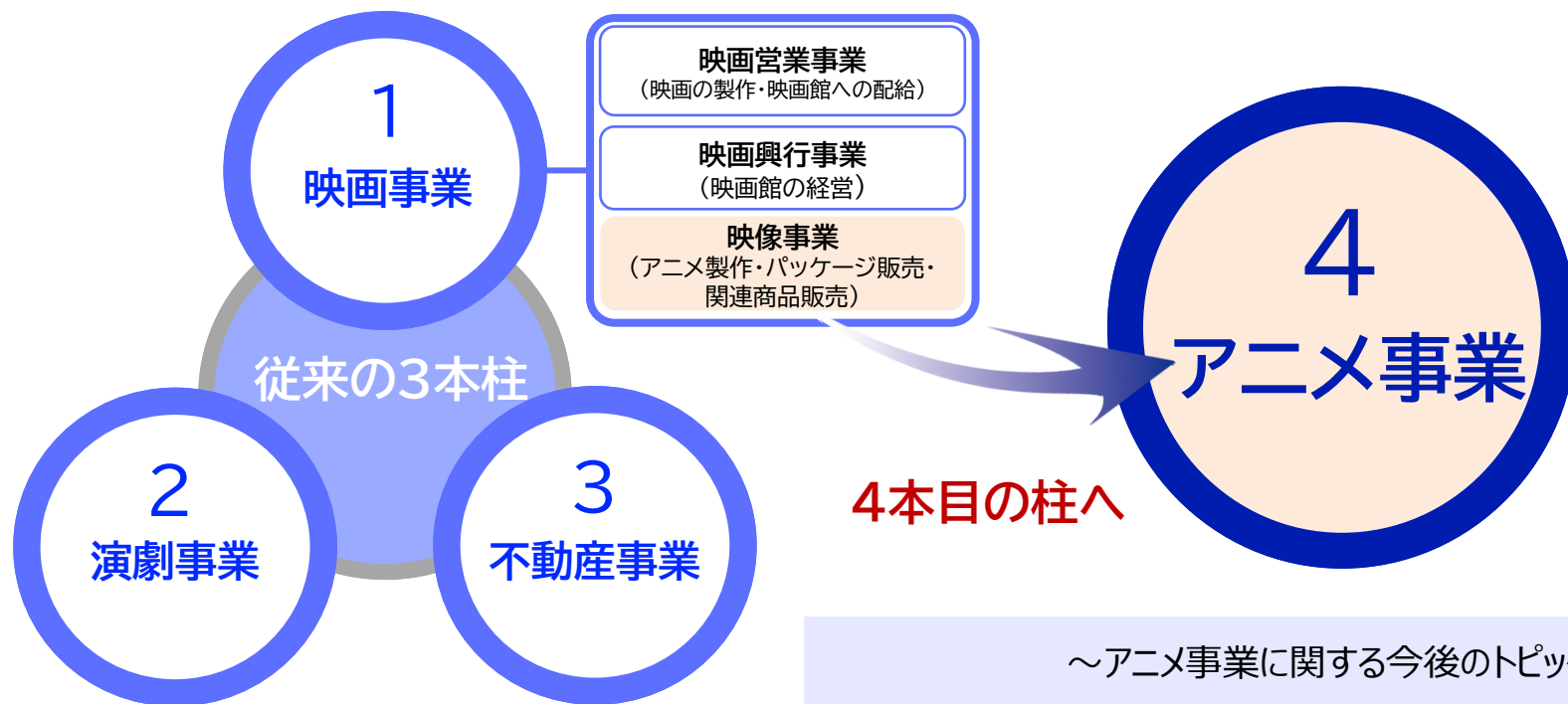
	2023年2月期	2024年2月期	前年同期比
3月	4,494	4,896	108.9%
4月	5,203	7,374	141.7%
5月	6,004	8,133	135.5%
第1四半期	15,702	20,404	129.9%

※全国のTOHOシネマズ等で上映されたすべての作品の興行収入（東宝配給作品を含む）



当社グループは、アニメーションを今後の成長ドライバーと位置づけ、そのアニメ事業を「第4の柱」とすべく、自社ブランドの競争力強化に資源を集中し、多面的・重層的・長期的なビジネス展開を図っております。

事業ポートフォリオの方向性 ～事業の3本柱から4本柱へ～



- TVアニメ「葬送のフリーレン」9月29日より放送開始
- TVアニメ「薬屋のひとりごと」本年10月より放送決定
- ゲーム「呪術廻戦 ファントムパレード」を本年中に、リリース予定
- 12月22日「劇場版 SPY×FAMILY CODE: White」公開決定
- TVアニメ「怪獣8号」2024年に放送決定

2024年2月期 第1四半期アニメ事業 ソース別営業収入及び国内外構成比

◆本表の対象範囲は、TOHO animationレベル及びこれに準ずる作品です。

	2023年2月期 3月～5月	2024年2月期 3月～5月	前年同期比	増減率	主な増減要因
配信	1,724	2,961	1,237	71.8% ↑	<ul style="list-style-type: none"> • (+) 「僕のヒーローアカデミア」「Dr.STONE」が伸長 • (-) 「SPY×FAMILY」わずかに縮小
キャラクターライセンス	1,907	1,621	▲ 286	-15.0% ↓	<ul style="list-style-type: none"> • (-) 「呪術廻戦」「SPY×FAMILY」が縮小 • (+) 「僕のヒーローアカデミア」「ハイキュー!!」が好調
商品物販	526	859	333	63.3% ↑	<ul style="list-style-type: none"> • (+) 「刀剣乱舞」「僕のヒーローアカデミア」のキャラクターグッズが好調 • (-) 前期「呪術廻戦」が好調
パッケージ	329	516	187	56.8% ↑	<ul style="list-style-type: none"> • (+) 「SPY×FAMILY」「刀剣乱舞」が大ヒット • (-) 前期「からかい上手の高木さん」が好調
劇場公開	1,365	1,856	491	36.0% ↑	<ul style="list-style-type: none"> • (+) 「BLUE GIANT」「グリッドマンユニバース」が好調 • (-) 前期「劇場版 呪術廻戦 0」が好調
演劇公演	—	1,054	1,054	—	<ul style="list-style-type: none"> • (+) 「SPY×FAMILY」が帝国劇場にて初のミュージカル化 • (+) 関連商品等も好調
配分金 その他	270	322	52	19.3% ↑	<ul style="list-style-type: none"> • (+) 「SPY×FAMILY」「刀剣乱舞」の配分金が貢献 • (-) 前期「僕のヒーローアカデミア」の配分金が好調
合計	6,122	9,191	3,069	50.1% ↑	
	2023年2月期 3月～5月	2024年2月期 3月～5月	前年同期比	増減率	当四半期の構成比
国内	4,339	6,578	2,239	51.6% ↑	71.6%
海外	1,783	2,613	830	46.6% ↑	28.4%

※当資料は、アニメ事業に関する開示情報の充実性の観点から自主的に作成したものであり、他の決算資料における数値とは整合しない場合があります。

(単位：百万円)

TVアニメ「呪術廻戦」第2期



©芥見下々/集英社・呪術廻戦製作委員会

TVアニメ「葬送のフリーレン」



©山田鐘人・アベツカサ/小学館/「葬送のフリーレン」製作委員会

TVアニメ「薬屋のひとりごと」



©日向夏・イマジカインフォス/「薬屋のひとりごと」製作委員会

毎週木曜23:56~MBS/TBS 系列全国28局にて絶賛放送中！

集英社「週刊少年ジャンプ」で連載中の、芥見下々による漫画作品「呪術廻戦」。

2018年3月から連載が開始され、人間の負の感情から生まれる呪いと、それを呪術で祓う呪術師との闘いを描き、既刊23巻にしてシリーズ累計発行部数は驚異の8,000万部を突破。

2020年10月から2021年3月までは毎日放送・TBS系列にてTVアニメ第1期が放送され、国内のみならず全世界で大きな反響を呼んだ。さらに、同年12月24日、第1期の前日譚にあたる物語が描かれる「劇場版 呪術廻戦 0」を上映し、全世界で一大会ムーブメントを巻き起こした。

2023年9月29日(金)よる9時
日本テレビ系【金曜ロードショー】にて、初回2時間スペシャル放送
※一部地域を除く
以降、日本テレビ系 新アニメ枠にて毎週放送！

「週刊少年サンデー」(小学館)で連載中、山田鐘人(作)とアベツカサ(画)による漫画「葬送のフリーレン」。

勇者とそのパーティーによって魔王が倒された“その後”の世界を舞台に、勇者と共に魔王を打倒した千年以上生きる魔法使い・フリーレンと、彼女が新たに出会う人々の旅路が描かれていく。コミックスは既刊10巻ですでに累計発行部数850万部を突破し、そして2021年には「マンガ大賞2021」大賞、「第25回手塚治虫文化賞」の新生賞を受賞するなど、漫画ファンの間で旋風を起している本作。TVアニメとしては日本テレビ史上初となる初回放送を【金曜ロードショー】にて実施、2023年9月29日より放送開始となる。

2023年10月から日本テレビ系にて全国放送開始！

後宮を舞台に「毒見役」の少女が、様々な難事件を解決する、シリーズ累計2100万部突破の大人気後宮謎解きエンタテインメント「薬屋のひとりごと」(著者：日向夏・イラスト：しのとうこ (ヒーロー文庫/イマジカインフォス刊))。

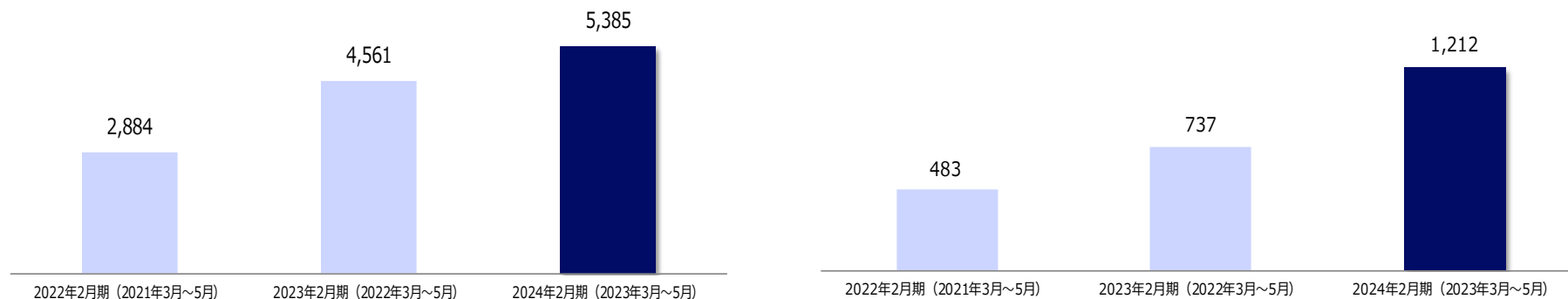
TVアニメ化が発表されている本作は、10月からの日本テレビ系での全国放送開始&各種プラットフォームでの配信が決定。

待望のTVアニメの監督を務めるのは、長沼範裕(「魔法使いの嫁」、「劇場版 弱虫ペダル(2015)」)。TOHO animation STUDIOと老舗スタジオであるOLM(「オッドタクシー」「古見さんは、コミュ症です。」)がタッグを組みアニメーション制作を担当する。

セグメント別業績【演劇事業】

営業収入

営業利益

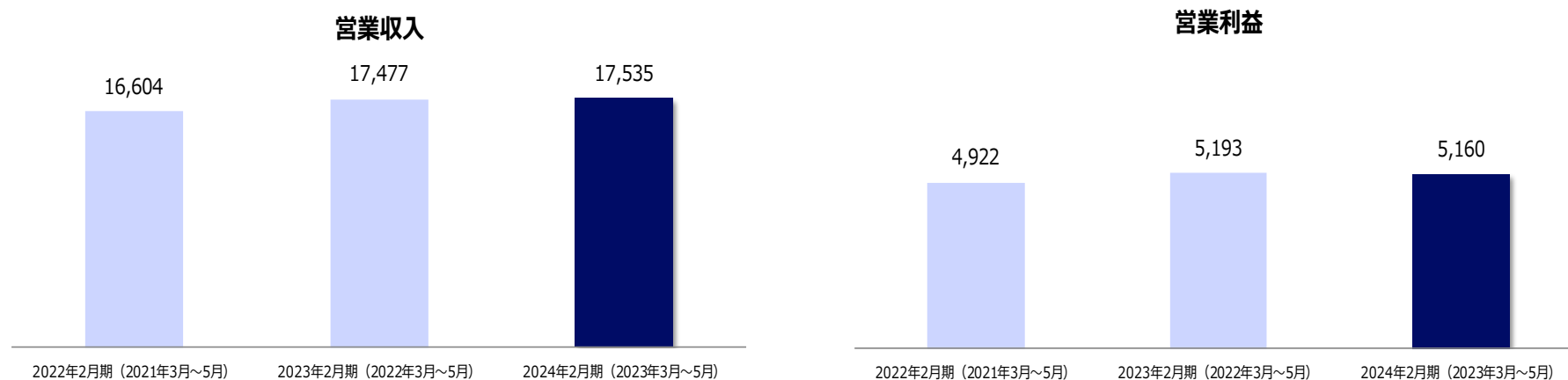


(単位：百万円)

業績分析 (増減要因)

- 帝国劇場では、大人気コミックの初のミュージカル化作品「SPY×FAMILY」(3月公演)、「Endless SHOCK (Endless SHOCK/ Endless SHOCK Eternal)」(4月~5月公演)が大盛況。シアタークリエでは、「RENT」(3月~4月公演)、「She Loves Me」(5月公演)等を上演。
- 日生劇場では、「ザ・ミュージック・マン」(4月~5月公演)を上演。梅田芸術劇場(3月公演)、博多座(4月公演)等で上演した「キングダム」も好調。
- 東宝芸能(株)では、所属俳優がCM出演等で好調に推移。
- 演劇事業全体としては、新型コロナの影響で一部公演中止となった演目はあるものの、前年同期に比べ事業環境が改善したことに加え、上記のような動員力のある公演を数多く実施することができたため、増収増益。

セグメント別業績【不動産事業】



(単位：百万円)

業績分析 (増減要因)

- 不動産賃貸事業では、保有する全国の賃貸物件が堅調に稼働。また、本年2月竣工の東宝日比谷プロムナードビルをはじめとした新規物件が貢献し、増収増益。
- 道路事業では、公共投資が堅調に推移するなか、技術提案等を通じた積極的な営業活動により新規受注や既存工事の追加受注に努めたが、一部工事の発注や完工時期が翌四半期以降にずれ込んだこと等もあり、減収減益。
- 不動産保守・管理事業では、東宝ビル管理(株)・東宝ファシリティーズ(株)において、新規受注の獲得の取り組みや経費削減に努め、増収増益。

業績・配当予想修正

当第1四半期は、主力の映画事業において「名探偵コナン 黒鉄の魚影」「ザ・スーパーマリオブラザーズ・ムービー」等の大ヒットに加え、TOHO animation作品の各種事業展開が好調だったほか、演劇事業、不動産事業も堅調に推移いたしました。こうした状況を踏まえ、連結業績予想を見直すとともに、配当予想を「中期経営計画 2025」の配当方針（年間40円をベースに、配当性向30%以上）に基づき、増額修正いたします。

■ 2024年2月期連結業績予想（2023年3月1日～2024年2月29日）

	営業収入	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A) (2023年4月13日発表)	253,000	40,000	43,000	28,000	159.44
今回修正予想 (B)	260,000	45,000	48,000	31,000	177.57
増減額 (B-A)	7,000	5,000	5,000	3,000	—
前回発表増減率	2.8%	12.5%	11.6%	10.7%	—
(ご参考) 2023年2月期実績	244,295	44,880	47,815	33,430	190.37

■ 配当予想

	第1四半期末 円 銭	第2四半期末 円 銭	第3四半期末 円 銭	期末 円 銭	合計 円 銭
前回予想 (2023年4月13日発表)	—	20.00	—	20.00	40.00
今回修正予想	—	20.00	—	40.00	60.00
(ご参考) 2023年2月期実績	—	20.00	—	40.00	60.00

本資料の内容には将来に対する見通しが含まれておりますが実際の業績は様々な状況変化や要因により、見通しと大きく異なる結果となりえることがあり、保証を与えるものではございませんのでご了承ください。
また、本資料の無断転載はお断りいたします。

本資料に関するお問い合わせ
東宝株式会社 コーポレート本部 総務部 広報・IR室
Mail : pr_ir@toho.co.jp